

スマイルタイムズ

No.244

子宮頸がんのピークは30代

東大病院放射線科 中川恵一 准教授

今号は中川氏の「がんの練習帳」の一部を要約して掲載します。最近、子宮頸がんに係る問題がよく取りざたされているので参考までに…。

待望の懐妊かと期待していたのに、子宮頸がんと診断され“全摘”になるかも知れないと宣告されたお産の経験のない神田裕美さん（34歳 仮名 以下の人も皆同）は初孫を心待ちにしていた姑の清子さんから、慰められるどころか“それじゃ子供はもうできないことになるのね”“お家断絶ね”と強く責められたので、家を飛び出し、友の百合子さんのところに転がり込みました。

裕美「子宮がんって高齢者じゃなくって、若い人に増えているのよ」。百合子「でもがんって一種の老化って聞くけど、なんで若い人に増えるのヨ」。裕美「セックスでなんとかウイルスが感染するのが原因らしいヨ。私、産婦人科の医者に男性経験が多いのじゃないか、と言われ腹がたった。私、本当に夫の博樹しか知らないのに」。百合子「そうそうパピローマウイルスが原因だって聞いたことあるわ」。

実際、がんは年齢とともに増える“不死細胞”の発生と免疫力の低下が重なってできる一種の“老化”です。しかし、子宮がんは例外的に老化とは関係がないのです。性交渉で感染するヒトパピローマウイルスが発がんの原因ですので“性の開放”によって若年化が急速に進みつつあるのです。今や、子宮がんが最も多い年代は何と30代なのです。

もっとも、パピローマは女性の8割近くが感染経験を持つというごくありふれたウイルスですし、一度でも性経験があれば子宮がんの危険があります。しかしこのウイルスに感染しなければ子宮がんはできませんから処女の女性には無縁の病気です。

子宮頸がんとは並ぶ“感染症型”のがんにはピロリ

平成28(2016)年 7月25日(月)発行

発行者 小浜市多田2-2-1 中山クリニック 院長 中山 茂樹

[http://www. Nakayama clinic. Jp](http://www.Nakayama clinic. Jp)

菌による炎症が主な原因となる胃がん、血液を介して感染する肝炎ウイルスが、原因の9割を占める肝臓がんなどがあります。

子宮頸がんが一番多く発症する年齢層は1980年ころは60～70歳くらいでしたが、その後、好発年齢はどんどん若くなり、現在は30代半ばがピークとなっています。若い女性の子宮頸がんが以前に比べて増えて来たというより発症年齢の中心が若年に“シフト”したといえます。

百合子「セックスで感染するウイルスが原因だとすればあなたのがんの原因は博樹さんてことになるのじゃないの。今までのお相手が本当に博樹さんだけならネ」。裕美「天地神明にかけて彼だけです。だから姑さんに責められるわけがないのです」。

裕美さんは博樹さんと姑の清子さんと揃って係りつけの産婦人科の外来に来ました。担当医はコンピュータの画面にCTとPET検査の画面を表示し、放射線科医の読影結果を確認し、「転移はないようです。3か所組織を採りましたが2ヶ所で“高度異形成”が出ていて、1ヶ所は“上皮内がん”の可能性があります。これだと入院して“円錐切除”が必要のようです。」と言われました。

高度異形成はがんに限りなく近い「前がん病変」、上皮内がんは最も早期のがんです。切除個所はレーザーで切るから入院は普通は3泊4日くらいでしょう。円錐切除をしてもそのあと全摘にはなるとは限りません。円錐切除とはパンフレットを見て下さい。こう言われて3人は少しほっとしました。裕美さんにとって何より嬉しかったのは自分には責任がないということをお義母さんに分かってもらえたこと、それに夫の博樹さんも一度だけほかの女性とセックスをしたと白状して二人に謝罪してくれたことでした。

了
（あとがき） 1）7/22頃、梅雨は開けたようですが、明け方は涼しく掛け布団を必要とする昨今です。 2）当院、ミニギャラリーは山口栄二氏（若狭有田）の油絵です。80号の大作が2枚、壁にビシッと並び、迫力があります。